

史上最大規模で開催のAHR・EXPOを見る 参観者は事前登録だけで5万人超に

報告者 宮崎 藤治

シカゴ市のマコーミック・プレース北・南館の37,000m²の会場に1,980社が出展した今年のAHR・EXPO（国際冷凍空調展）は76年におよぶ同展史上最大規模となった。事前登録者数も54,332人にのびたが、わが国からは東京冷凍空調事業協同組合（沖原正宜理事長）の視察団一行11名が訪れ熱心に参観した。一行に同行する機会を得たので以下、AHR・EXPOの様相を報告する。



入口でせいぞろいした視察団一行

§ 圧倒された広大な会場、出展社の数に驚き

今年のAHR・EXPOは1月23～25日、シカゴ市のマコーミック・プレースで開催された。主催者発表によると会場の展示スペースは37,000m²、出展者は1,980社、うち海外からの出展は39カ国、314社にのびた。

宿舎のヒルトンホテルからシャトルバスで、24日午前10時前に会場に到着した一行は、まず、会場の広大さに圧倒され、出展社の数の多さに驚かされる。ちなみに2月初旬、東京で開催のHVAC&R展は出展社が150社余なので、ざっと10倍以上の規模に相当する。

今年のEXPOを前に米冷熱業界では目立ったM&A（企業の買収・合併）がいくつかあった。その1つは宇宙産業からBA（ビルディング・オートメーション）、自動機器まで手がけるコングロマリット、ジョンソン・コントロールズのターボ冷凍機からルーフトップなどの空調機メーカー、ヨークの買収であり、今回の展示ではジョンソン・ヨークグループの協調展示が目についた。

もう1つは世界最大級の冷媒メーカー、デュポンによるローディアの買収で、HFC混合冷媒ISCEON9シリーズの販売に乗出すことになったデュポンは、今回の展示で北米・カナダ地区のスーパーのレトロフィット向けにISCEON9シリー

ズの投入を発表、脱R22を促進して“地球環境に貢献”するメーカーとしての姿勢を強力にアピールした。

恒例となったビルディング・オートメーション&コントロール・ショーケースではジョンソン、ハネウェル、デルタ、シーメンス、ヤスカワなど主要メーカーが争って出展。グリーンビルへの採用や省エネルギーの機器としてのBAシステムの存在をアピールした。

ソフトウェア・センターには52社が出展、エネルギーマネジメントから負荷計算ソフトまで幅広くPRしていた。

目立ったのがEPA（米国環境保護庁）とカリフォルニア州の支援を受けたグリーン・ビルディング・スタジオの“環境調和型ソフト”。

製品別では、まずエアコンでフェダーズ、GE、レノックスなど米国勢に加え、中国の海爾、山東、韓国のLG、サムスンなどが出展。日本からはダイキン、三菱電機、富士通ゼネラルなどが最新機器を展示した。

中でもダイキンはかなりのスペースを使い、スカイ・エアシリーズの実機を出展、単相、3相のVRV機能とインバーター搭載による高いSEERを誇示した。富士通は9,000～12,000Btuクラスで



毎日、新聞も発行



韓国メーカーブースにテレビクルーも



ダイキン工業はスカイエアーをPR



ライセンス生産するタイ・メーカーのコンプレッサー

SEER21の高効率をアピールした。同社ではコンプレッサーで6年、その他の部品で2年の保証（ワランティ）をセールスポイントにしていた。

コンプレッサーでは、大型でブリストル、ピッツァー、ハンベル（漢鐘）などの国際メーカーが目立ち、冷媒もR22からアンモニアまで幅広い対応が可能な製品が多く見られた。

小型ではダンフォスのほか、日系の大連三洋が半密閉8～12馬力のスクロール（R22、R410A用）を、また上海日立はR134aとR410A採用のロータリーでインバーターを搭載、EER14の機種などを出展した。日本の三菱重工、米国のコプランドと技術提携しているタイのクールゾーンも各種コンプレッサーを展示、米国市場への売込みを図っていた。

冷媒ではハネウェル（ジェネトロン）、デュポンなど国際的メーカーが参加したが、デュポンではポストR22を見据えて、このほど冷媒ビジネスに新たに陣営に加えたISCEON9シリーズをスーパーなどの既存設備のレトロフィット用に利用を呼びかけていた。同社は昨年8月、ローディアを買収、ISCEON9シリーズを手がけることになったもので、昨年11月のIKK展（ドイツ）で初めて

発表、冷熱業界から好評をもって受け入れられているとのことで、北米、カナダでの販売はAHR・EXPOでの発表以降になると説明していた。

他方、回収再生冷媒を販売する業者やイエローハット、ロビネアなどのフロン回収機、ウォシントン、アムトロールなどの回収用容器も目についた。

今回は“IAQのコーナー”は特設されなかったが、エアクリナーや除加湿機、フィルターで数多くの企業が展示、除湿機の国際メーカー、ムンタースは大きなローターとともに、最近始めた“ドライ・ビル”ビジネスをPRした。ハリケーン、カトリーナに襲われたニューオーリンズの住宅から湿気を除くため数十名のチームを現地に送り込み、活発なビジネスを展開中だという。

今回の展示会を通じての共通テーマは“グリーンビル”とIAQ、IEQでそのコンセプトにより持続可能な社会を追求する姿勢が満ち溢れていたのが印象的だった。

なお、来年のAHR・EXPOはテキサス州ダラス市のコンベンション・センターで1月29～31日に開催される。